

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	言語・発達サポートルームソラシド			
○保護者評価実施期間	令和7年7月7日		～	令和7年8月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数)	16
○従業者評価実施期間	令和7年7月7日		～	令和7年7月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 8月28日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもたちが安心して過ごせるように十分な活動スペースが確保されており、清潔で心地よい環境づくりが整っている。 ・少人数での支援により、子どもが安心感を持って通所で、通うことを楽しみにしているとの声が多く寄せられている。 ・職員の配置は基準を満たしており、欠勤時にも社内で連携を取りながら安定した支援を行える体制が整っている。 ・子どもの特性を理解し、専門性のある支援が行われており、コミュニケーション力や会話力などの成長が実感されている。 ・支援プログラムは公表内容と一致しており、一人ひとりに合わせた支援が行われている点が保護者から信頼を得ている。	・各部屋やスペースの使い方を工夫し、安全に配慮した効率的な活動を行っている。 ・職員研修を充実させ、支援の質を高める取り組みを継続している。 ・個別支援を中心に据え、子どもの課題や成長に合わせた柔軟な対応を行っている。 ・支援プログラムや利用案内をHPや掲示で分かりやすく公表し、透明性を確保している。 ・保護者からの相談や申入れについて、迅速に対応できる体制を整え、安心して相談できる場の確保に努めている。	・保護者への情報共有をより丁寧に行うため、送迎時の口頭説明に加えて、面談の機会や個別記録の活用を強化する。 ・支援計画や日々の取り組み内容を可視化し、プリントや活動記録の持ち帰りなどを通じて分かりやすく伝える工夫を進める。 ・防災訓練や事故対応に関する周知を保護者にも分かりやすく伝え、安全に対する安心感を高める。 ・職員体制や新任職員に関する情報を積極的に発信し、保護者が安心して関わられるよう工夫する。 ・保護者会やきょうだい支援、家族向けプログラムなどの交流機会について、希望に応じて実施を検討する。 ・地域や他園との交流機会については、事業所の特性に合わせながらも、子どもに多様な経験を提供できるよう工夫する。
2			
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者への情報共有が十分でないと感じられることがある(送迎時に日常の様子を聞けない、支援計画や取り組みが分かりにくい)。 ・プリントや持ち帰り資料が少なく、活動内容が見えにくいとの声がある。 ・防災訓練や事故対応、安全計画に関する保護者への周知が十分でない。 ・新任職員や体制変更などの情報発信が不十分で、保護者が把握しにくい。 ・「共感的な支援が十分に感じられない」との声があり、保護者への心理的安心感に課題がある。	・個別支援を中心に行っているため、送迎時に利用児童が重なり、保護者とゆっくり話す時間が取りにくい。 ・支援内容を記録や教材に残す仕組みが限定的で、保護者に見えにくい状況になっている。 ・少人数支援に注力しているため、保護者会や交流イベントを企画する余力が限られている。 ・建物の構造上、完全なバリアフリー環境が難しく、配慮や説明が必要な場面がある。 ・安全マニュアル・災害対応は職員内で徹底されているが、保護者への情報伝達が後回しになっている。 ・職員間で支援内容を共有していても、それを「どう保護者に伝えるか」という工夫が不足している。	・送迎時に伝えきれない内容を補うため、活動記録の簡易なフィードバック(連絡帳、個別記録の配布など)を導入する。 ・支援計画の説明時には計画書を提示し、質問の時間を設けて分かりやすく伝える機会を増やす。 ・プリントや教材の持ち帰りを定期的に行い、活動内容を家庭でも確認できるようにする。 ・防災訓練・事故対応・安全対策の内容をニュースレターや掲示などで分かりやすく共有し、保護者の安心感を高める。 ・新任職員や体制変更については、通信などで随時紹介を行い、家庭とつながりやすい環境をつくる。 ・職員が「共感を伝える関わり方」を意識できるよう、事例共有やロールプレイなど研修の機会を設ける。
2			
3			